

令和7年度 自己評価書

令和8年3月26日
真庭市立川上こども園
園長 吉原 幹枝

1. 川上こども園の教育保育目標

- 豊かな人間性をもった心身ともに健康なこどもの育成
- ・元気いっぱい
 - ・優しさいっぱい
 - ・やる気いっぱい川上の子

2. 本年度の重点目標

- 子どもをまんなかにした温かい保育を目標にし、認定こども園として保育指針を踏まえ、安心して安全な質の高い保育を目指している。
- ・保育者との信頼関係のもとに、子ども一人一人の発達に即した指導を行い、様々な活動に主体的に関わる力を養う。
 - ・身近な自然や人との関りを直接的に体験することを通じて、生きる力の基礎となる資質、能力を培う。
 - ・家庭との連携を深めながら、健康で安全な生活をするために、基本的な生活習慣や態度を身につける。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	園の保育目標及び今年度の重点目標に沿った計画の立案や保育の振り返りが、概ねできていた。	3
行事	子どもの興味関心を大切に捉え、無理のない形で楽しめる園行事につなげることができたと思う。	3
組織・運営	園全体として、共同できる体制は作られているが、職クラスによっては、職員間の協議をす時間の不足も感じた。	3
学級経営	子ども一人一人を大切に受け止め、信頼関係の中で子ども主体の保育実践ができた。	3
特別支援教育	子どもの特性を理解し家庭や関係機関との連携を図りながら、支援方法を園全体で共有するようにした。	3
安全管理・保健指導	いろいろな状況を想定した避難訓練を実施することにより、各種災害への対応ができるようにした。	3
研修（資質向上）	基本的な職員研修を受け、更に園の保育に必要なことを内容に取り入れて園内研修を行った。	4
情報提供・保護者・地域との連携	保護者への発信は、コドモンやボードで活動写真の掲示等、工夫して行えた。地域との連携は今後の課題。	4
小学校との接続・連携	今年度は5月にモニタリング、7月に小学校教諭の保育見学交流及び振り返り、3月に引き継ぎ会を行い、スムーズな就学を目指して連携を行った。	3
子育て支援	必要に応じて個別面談の実施やお便り発信など、子育てが楽しめるように配慮している。	4
食育の推進（給食）	栽培した野菜を新鮮なうちに給食に取り入れ、食材に関心をもつような取り組みや食事方法についての指導にも取り組んだ。	3
食事の提供（調理）	1歳児への刻みや食事が苦手な子どもの実態に合わせた提供方法への配慮を行った。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
その他1（保育士）	園職員として、身なりや言葉遣いなど保育職としての意識を常にもつことや、日々の保育や個別対応が必要な子どもへの対応について、話し合いや情報を共有し、園全体で関わる意識を高く持って保育にあたっていた。	3
その他2（調理員）	安全、安心の給食を提供するために、衛生面の徹底や自己の健康管理をおこなったり、子どもが喜んで食べる給食を目指して職員間での報連相や保育士との連携を積極的に取ったりした。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

<p>○重点目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員がチームとなり一人一人を大切にされた温かい関わりをしながら、目標に向かって保育・教育を進めた。また、全職員が同じように共通理解できにくい部分があった為、課題が残っている。来年度も引き続き研修を行い、職員が学び合う姿勢をもち各自が成果と課題を見つけていけるようにしたいと思う。 ・職員の振り返りや専門性の向上については、今年度人権についての法律が加わり、保育、教育に携わる職員自身の対応について、保育者としての自覚や責任をもち、子ども達と関わる事ができているかを振り返ることを大切にしてきた。 ・冬は積雪を利用して雪遊びを楽しむことができたが、年間を通して蒜山の資源である自然を活かした保育がなかなかできなかった。季節に沿って自然に関わって遊ぶことについて提案できるように計画を立て、保育に取り入れていくようにしたい。 ・園児数が減少傾向にある現在、子どもたちのかかわり方にも変化がみられる。友達や身近な大人との関りについて、言葉を大切にしながら関わっていくことを保育者が大切にしていきたい。 ・家庭との連携については、コドモン導入により、SNSでの連絡が中心になってきた。来年度からは、連絡帳についてもコドモンでのやり取りが始まるため、連絡のとりかたや、内容など確認をしながら、慎重に取り扱う必要がある。 ・給食業務については、日々の衛生管理、安全管理の徹底やアレルギー児への対応等適切にできた。保育者とも連携をとりながら安心安全な給食の提供ができていた。栄養士や担任を中心にさらなる食育指導を進めていきたい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりについては、毎月の昔話の会を始め、地域の老人施設との交流を行っている。お年寄りとの交流を通して、人との関りや、お年寄りを大切に思う気持ちなどを育てていきたい。また、行事の内容については、まずは子ども達の為に必要であるか、発達年齢に適しているかどうかを改めて精査したり、市内または近隣の園の状況をみたりしながら、すすめていきたい。
--

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・今年度の重点目標に対しても、継続的な取り組みが必要であるとする。保育の振り返りを大切にし、園内研修のあり方を工夫しながら、専門性の向上に努めていきたい。
- ・今後も保護者との信頼関係を築きながら、子ども達の保育・教育に対する理解と協力を得ることができるようにしていかなければならない。
- ・地域交流については、年長児が中心となっているが、園児数も減少し、3, 4歳児が混合クラスで運営していることも含め、参加年令や内容など工夫する事などが課題である。また、休日の参加要請については、家庭の都合等もあるので、地域の園で協力の仕方を協議する必要がある。

園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である